

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「個人の尊重」「持てる力を引き出す」「地域社会の中のふれあいを大切に」を基本に、利用者の皆様が地域社会の一員として可能な限り自立した生活が送れるよう支援すると明示しています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「運営理念」をホーム内の見やすい掲示板に掲げ、管理者及び職員全員が日々確認しながら実践に向けて取り組んでいます。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	近隣の小学校福祉学習の受入れ、保育園運動会参加、地域のお祭り等に参加し、地域に開かれたホームを目指し取り組んでいます。	
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	入居者との散歩時、行きかう人達への挨拶や近所のスーパー、商店での買い物利用で顔見知りとなれるよう心掛けています。近隣の方への、施設見学は随時行なっています。近隣小学校の「こども100当番」の受入れ表示をしています。町内会に加入し、行事に参加したり、また施設行事に招待したりと地域交流に努めています。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行ない意義を理解している。また評価結果についても話し合い、改善すべく努力しています。	○	実践に結びついていない項目の改善に努力して行きたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況や評価への取り組み等、年に一度は会議の中で報告し、意見交換をしています。	○	メンバーの出席率もよく、さまざまな意見や助言をいただいている。今後も、継続しながら施設サービスの質の向上に繋げていきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じ運営上の相談をし、助言や指導をして頂いています。	○	今後も市担当者の方には、相談し、指導を受けながらサービスの質の向上に取り組んでいく。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要のある方への相談支援の用意があります。外部研修に参加し、理解しています。	○	管理者以外のスタッフの外部研修参加を調整する。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入居者へのサービス実施に問題がないか職員間で話し合い、カンファレンスで確認し、常に防止に努めています。	○	研修会に参加したり、勉強会を開催するなど徹底を図りたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族からの意見や要望を聞き取り、十分な説明と話し合いにより、当ホームの理解と納得をして頂いてから契約をしています。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言動から不満や苦情の訴えを察知し、管理者・スタッフ間で話し合い、より良いケアへの努力をしています。外部苦情申し立て機関を重要事項説明書にて説明しています。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	健康状態の変化や事故などがあった時は、随時報告しています。また面会時にも健康、精神状態や暮らしぶりの報告をしています。個人の預かり金は定期的に出納帳で残金の確認をして頂いています。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置しています。またモニタリングの面談時にも伺い、改善への話し合いをしています。重要事項説明書にて苦情相談窓口、外部苦情申し立て機関を明記し、説明をしています。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の開催時や毎日のミーティングの際、意見・提案が出せる環境を心がけています。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要時調整できている。 緊急時の勤務交代もスタッフの協力が得られています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別な理由がない限り、職員の入れ替えは行わないようにしています。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修・介護研修に参加しています。	○	外部研修への積極的参加 内部研修の実施
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの情報交換や相互の訪問等でサービスの向上に活かしています。	○	管理者同士だけでなく、職員の施設見学やネットワーク作りをも実現できるよう目指す。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの原因を知るため、スタッフの思いを聞いてくれています。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は頻繁に現場に来て、周囲に目を配り、個々の努力や実績等を把握し、悩みや不安などを聞くようにしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者本人が自分の思いを気軽に話せる雰囲気作りを心がけ接するようになっています。また家族の面会時にも近況報告を兼ねて聴く等、信頼関係を築ける努力をしています。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、希望等があれば情報の提供やサービスの説明をします。また業者との連絡調整を行ないます。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が新しい環境に戸惑うことなく生活できるよう、家族と相談、協力の基、必要なものを用意し、本人が安心して生活が送れるようになっています。	○ 入所後の数日は、できるだけ毎日家族の方が、顔を見せてくださるようお願いしています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の能力に応じ、可能な方とは掃除や調理を一緒に行ない、その中で学ぶこともあります。また時間の許すかぎり一緒に過ごすよう努力しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	状況に変化があれば随時報告し、情報を共有しながら相談、ケア実施へと進めています。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前の家族関係を可能な限り話を聞くようにし、理解する努力をしています。行事へお誘いし、一緒に楽しんでいただけるよう働きかけています。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から利用している理容店、商店、病院等、入所後も継続して利用できるよう支援をしています。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの性格を把握し、孤立しないよう職員が相互の間に入り交流を図れるよう支援しています。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院された時は、お見舞いに行き励まし、付き合いを継続できるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思確認のしづらい方でも日常の言動や行動からくみ取るよう職員全員で情報を共有し、支援への検討をしています。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のフェースシートを基に、本人、家族からお話を伺いアセスメントに活用しています。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の朝、夕の申し送りで、日々の様子や変化を職員間で情報の共有に努めています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の観察情報や家族との面談、職員からの情報や意見を取り入れたプラン作りをしています。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一度、見直しを基本とし評価を実施しています。また、利用者の現状の中で対応困難が生じた場合、本人にあったケアプランの見直し、変更へと作成しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々に記録し、ケアの中で気付いた点を職員全員が把握し、必要なケアに対し検討、プランの見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体であるクリニックとの連携により、健康管理と急変時の迅速な対応が行われるようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入所前に担当されていた利用者への民生委員の来訪、近隣の小学校、保育園との交流、学生ボランティアの受入れなど協力しあっています。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険外サービスの利用はサービス事業者と連携を取り、福祉用具購入、リース等の支援をしています。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性がある場合は、地域包括支援センターと連携し支援をしていきたい。	○	地域包括支援センターとの情報交換を積極的に行い、連携に努めていきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の健康管理を行ない、常に主治医に報告し、指示をもらっています。緊急時は夜間、休日の対応も可能です。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が専門医と連携を取り、対応しています。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の看護師と情報交換、相談等で日常の健康管理を行っています。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と連携を図り、本人、家族の意向を確認、十分に話し合い、退院後も安心して生活ができるように努めています。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向を聞き、主治医と相談しながら、出来る限りの支援を検討し決めています。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の病状悪化や終末期には対応していない。	○	今後、対象者が現れた場合は、主治医と支援について相談していきたい。 ききょうの ユニット2

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族に関わる関係者間で十分な話し合いや意見交換を行ない、ダメージが最小限に止められるよう努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの生活状況を理解し、言葉かけや対応に注意するよう心がけるようにしています。個人情報ファイルは利用者の目の届かない場所に保管しています。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自己決定や希望が出せる場面作りをし、その方の意思に沿って暮らせるよう支援に努めています。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調、気分等を考慮し、日課や就寝時間を職員で相談しながら、支援できるよう努めています。都合によっては業務を優先し、答えられない場合もあります。	○	できるだけ本人の要望に沿えるような業務分担の見直しなども検討したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人の要望に合わせ、理容、美容院へ通える援助をしています。外出時や行事の際もその人らしいおしゃれができるよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力により、盛付や食器拭き等、役割分担し、参加していただいています。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を把握し、可能な限り提供できるようにしています。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、経過を見ながら自立を目指した対応、誘導をしています。	○	オムツ使用者で便意の訴えがある方のトイレ排泄の自立に向けた支援を行っている。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日、時間帯は決められていますが、その日の体調や希望にあわせて入浴日の調整をしています。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲れてた様子や、落ち着かない様子が見られる場合は居室で休まれるよう促し、照明にも配慮し静かな環境を整えます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、掃除、新聞やチラシ折等、個々の役割を大切に、それらを発揮できる場面づくりの支援、また趣味や関心の把握により、楽しめる生活の工夫をしています。	○	一人ひとりに、新たな楽しみや活動意欲となる支援の提供をしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には日常の管理を行っていただいています。自己管理能力が難しい方に対して、外出の際、多少のお小遣いを持ち買い物が楽しめるよう支援しています。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩、近隣スーパーへ買い物外出等、日常的に支援しています。また歩行の難しい方も車椅子外出で気分転換をしていただいています。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望を取り入れたホーム行事外出や少人数で外出できるドライブなどを計画し、出来るだけ外に連れ出す機会を作っています。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話で居室でも自由に掛けられます。また、手紙の投函依頼、切手・用紙や封筒等を準備し、支援を行っています。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室でお話したり、一緒にお茶や食事をしていただいたりとゆっくり過ごせる配慮をしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒、ふらつきが頻繁に見られる方で、事故に繋がる危険がある場合、カンファレンスにて身体拘束をしないケアについて検討、話し合いをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は解放し、それとなく見守りしている。外出傾向や外に出たい様子が見られる利用者に対しては声をかけ一緒に散歩するなど気分転換を図り、鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中調理や記録記載などしながらも利用者の行動や様子をさりげなく把握している。夜間2時間ごとの巡視で様子観察し、覚醒時の移動見守り等で安全確認を行っています。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや果物ナイフ、針等、管理できない利用者の物品は、本人、家族と相談し、保管場所や預かりなどの対応をしています。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の生活状態や身体機能を把握し、常に目を配りながら事故防止に取り組み、ヒヤリハット事例を職員間で話し合い防止策を検討しています。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	母体であるクリニックとの連携により、事故発生時や急変時の迅速な対応が行われるよう定期的な訓練を行っています。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練を年三回定期的に行なっています。また、近隣住民や町内会の方々に実際に訓練に参加していただき協力が得られています。	○	災害に備えて必要物品の用意をしておく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状態の変化から予想、起こりうるリスクについて家族に説明、相談しながら対策を検討しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の排泄、食事、水分管理、バイタルチェックにより体調の変化等、早期発見できるように職員間で情報を共有し対応に努めています。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個々に薬箱にいれ常に確認できるようにしています。変更があれば記録に記載して申し送り、服薬経過を観察しています。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の補給、個々に合わせた運動を取り入れ便秘の予防をしています。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがいや義歯洗浄の声がけ、できない方への介助等、口腔内の清潔に努め、義歯調整の必要があれば歯科受診しています。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮、一日平均（1500～1600cal）の摂取を目標とし、水分量も最低一日（1000～1500ml）個々の必要量に合わせ摂って頂いています。また嚥下機能に応じた食材調整も行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	母体クリニックより感染症に対する予防策、発生時への対応指導を受け、実施しています。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の安全を確認し、調理者の手洗いの徹底、器具類の消毒など毎日の衛生管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	目立つG・H看板は出さず、地域の住宅のとけこめる外観にし、玄関周りは沢山の鉢植えの花やベンチを置き、誰でも一休みできる工夫をしています。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂、台所等、一般家庭の雰囲気を保てるようにし、テーブルには季節の花を生け、観賞しながらお茶を飲み楽しんでもらっている。また廊下掲示板に利用者の作品を飾り、季節感を感じられる工夫をしています。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の奥が畳スペースになっており寛ぎの場として活用している。また廊下中央にベンチを置き、利用者同士の少しのお話でも座って交わせる工夫をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時、自宅から使い慣れた家具、生活用品、装 飾品を持って来ていただいています。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	気になる臭いがないように、日に数回の換気と居 室、居間、脱衣場等の温度管理を行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	個々の身体機能面から活動状況やトイレ移動が安 全に行えるよう配慮し、手すり設置、滑り止め マットなども使用しています。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	共同ゴミ箱、洗濯バケツ、掃除用具など、決めら れた場所を移動させたりせずに混乱をなくしてい る。また利用者の状態に合わせ部屋の目印などを 工夫しています。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	敷地内に花壇や菜園を作り、利用者が生け花、野 菜の収穫を楽しんでいる。また2階のエントラン ス部分にある椅子に腰掛け外の風景を眺め季節を 感じてもらえるようにしています。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)